

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

タイトル：「契丹語・契丹文字研究の新展開」（平成22年度第3回研究会）

日時：平成23年1月22日（土曜日）午後1時30分より午後6時

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所306号室

報告者名（所属）：

1) 武内康則（武内康則AA研共同研究員，京都大学）

「統計的手法による契丹文字の音価探索の試み」

1 先行研究

- 1950年代以降、異体字の整理、形態素の抽出など統計を用いた契丹小字に対する初歩的研究がおこなわれた。長田(1951), 田村・小林(1953), Стариков(1970; 1982)らによる研究。
- 当時の契丹文字・契丹語に対する理解、資料の制約のため実質的には契丹文字解読の進展には寄与しなかった。

2 契丹文字研究の進展と資料の増加

- 清格爾泰ほか(1985)以降、契丹文字の研究が大きく進展した。さらに、近年の契丹文字資料の増加資料に加え、言語資料の電子化が容易になったことによってそれらを活用した契丹文字資料の分析が可能となった。

3 統計学的アプローチによる契丹文字の音価探索の試み

- 契丹語に存在する母音調和は文字表記にも反映されている。さらに、契丹小字には母音を重ねて書くと言う特徴がみられることから、同じ単語(文字ブロック)中に共起する文字は母音調和の同じグループに属する母音を持つ可能性が高い。
- ひとつの文字ブロック中に共起する文字を統計的に処理することで、その文字が母音調和のグループに属する可能性が高いかを数値化し、機械的に分類しようと試みた。
- 結果はこれまでの解読結果とある程度合致するも、判別の基準の閾値付近に多くの文字がありこれらについてはさらなる研究が必要である。

参考文献

長田夏樹(1951)「契丹文字解読の可能性 — 村山七郎氏論文を読みて」『神戸外大論叢』第2巻4号.

田村実造, 小林行雄(1953)『慶陵 — 東モンゴリアにおける遼代帝王陵とその壁画に関する』東京: 座右宝刊行会.

清格爾泰, 劉鳳翥, 陳乃雄, 于宝林, 邢複礼(1985)『契丹小字研究』北京: 中国社会科学出版社.

Стариков В. С. (1970) *Материалы по дешифровке киданьского письма*. Moskva: Nauka.

Стариков В. С. (1982) “Прозаические и стихотворные тексты малого киданьского письма XI—XII вв.”. In *Забывтые системы письма: Материалы по дешифровке*. Moskva: Nauka, pp. 99–210.

2) 荒川慎太郎 (AA研究所員)

「『首届中国少数民族古籍文献国际学术研讨会』参加報告」

「第1回中国少数民族古籍文献国际学会」が2010年10月20日–22日, 中央民族大学で開催された。荒川が拝聴した発表, ペーパー集掲載の論文から, 興味深い4件を紹介した。

1 西夏語中の「契丹」

聶鴻音〈西夏文中的“契丹”〉

「西夏語文献中の“契丹”は *chitan* と読めるが中原史料の *khitan* と一致しない。西夏語の“契丹”はチベット語経由で入った語であり, 吐蕃人から契丹を知ったのではないか」

2 新発見の各種中国少数民族による古籍

史金波〈中国少数民族文字古籍研究簡論〉

「古代から現代までの中国少数民族文字による古文献の研究とその重要性。後半では中国国内新発見の古文字文献, 国外所蔵の少数民族文献について紹介する」

3 漢文兵書の西夏語訳を材料とした比較研究

Imre Galambos: *Translation fidelity in Tangut renditions of Chinese military texts*

「中国兵書の西夏語訳を資料とし, 西夏文と漢文を併記すると, 語彙・内容の増減など明らかな不一致がみられる。版種の違い, 翻訳者の意図的な変更などを明らかにする。こうした作業から失書の復元も可能になるかもしれない」

4 『三合切音清文鑑』で漢字音写される蒙古語の特徴

栗林均〈《御製滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑》中以漢字轉写的蒙古語特征〉

『三合切音清文鑑』(1780)にはモンゴル語を漢字と満洲文字で音転写する部分がある。モンゴル語は『満蒙清文鑑』(1717), 満洲文字で転写されるモンゴル語は『満蒙清文鑑』(1743), 漢字三合切音表記は『増訂清文鑑』(1771)によると考えられる」

「分科会の編成の妥当性(契丹+モンゴル, 西夏+チベットではどうか?)」「プログラム, 参加者の度重なる変更」, 「配布された論集の不備(国際音標文字も西夏文字他「民族文字」も文字化け)」など, 当学会は今後課題を残すも, 継続するか。

3) 近年の契丹研究に関する情報交換(全員)

上記の報告に引き続き, 全参加者により, 契丹語のいくつかの語彙と各人が専門とする言語の語彙の比較検討, 新出契丹文字資料に関する情報交換などを行った。